

自由民主党 衆議院議員

みやじ 拓馬多様で公正な社会へ
社会は変えられる。さあ、ともに歩もう。

発行：令和7年8月30日(土) みやじ拓馬後援会 新屋敷町16-422

討議資料

国連本部において日本外交を展開！

ニューヨークで開催された「持続可能な開発のためのハイレベル政治フォーラム閣僚会合」に出席し、SDGsに関する自発的国家レビューを発表しました。SDGsの実現に向けて企業・自治体・市民が一体となって取り組む姿を、車いす使用者が取り残されない社会の実現に誰もが貢献できることを可能にした当事者である織田友理子さんや、アカデミアやユースの代表者の皆様とともに訴えた我が国の発表は、すべて参加者から拍手喝采の高い評価を得ることができました。併せて、国連本部のグテーレス事務総長やユニセフのラッセル事務局長など、国際機関のトップとも会談を重ね、我が国の国際舞台におけるプレゼンスを上げる一助となりました。今後も外務副大臣として、我が国の外交力の強化に全力を尽くしてまいります！



科学技術と自由貿易で未来を拓く！

韓国・済州で開催されたAPEC貿易担当大臣会合に出席し、貿易円滑化のためのAIイノベーション、多角的貿易体制を通じた連結性及び持続可能な貿易を通じた繁栄について議論を行いました。私からは「人間中心のAI社会原則」のもと、リスクに対応する規制と技術革新の促進の両立を重視する我が国の取組について発表するとともに、アジア太平洋地域の持続可能な成長と繁栄を目指し、自由で開かれた、公正な貿易・投資を推進し、WTOを中核とするルールに基づく多角的貿易体制を強く支持する決意を表明し、WTO改革を粘り強く進めていく必要性を強調しました。併せて、議長国・韓国をはじめ7か国の政府代表と会談を重ね、我が国の立場を訴えました。今後も外務副大臣として、国益の確保に全力を尽くしてまいります！



日米比海上保安機関の合同訓練を視察

鹿児島から「自由で開かれたインド太平洋」を守る

我が国で初となる日米フィリピン海上保安機関の合同訓練が地元・鹿児島において実施され、私も外務副大臣として各国巡視船を視察し、隊員の皆様を激励しました。我が国の安全保障における南西諸島防衛の重要性が益々高まる中、鹿児島の地で合同訓練が行われることは非常に意義深く、レセプションの場においても、「自由で開かれたインド太平洋」の実現に向け、日米比の連携を一層強化していく必要性を訴えました。力による一方的な現状変更の試みを決して許さない国際秩序を維持すべく、同盟国・同志国と連携し、我が国の平和と国益を守り抜いてまいります！



アフリカと我が国の関係強化に貢献

ベナン・カメルーンとの連携が日本の外交力を強化する

西アフリカのベナンとカメルーンを訪問し、政府要人と会談を重ねました。資源・エネルギー・安全保障分野を含む包括的な協力や日本企業の進出支援など、具体的な連携を進めることを確認するとともに、両国から長年にわたる我が国の ODA 等による支援に対し、心からの謝意が示されました。こうして築いてきた信頼関係があるからこそ、国際社会において「自由で開かれたインド太平洋」の理念をはじめとする我が国の主張に多くの賛同を得ることができ、その積み上げこそが我が国の外交力の根底にあることをあらためて確認する機会となりました。



県内各所の豪雨災害を受け、現地を視察

被災された皆様に心からお見舞い申し上げます

鹿児島県内で発生した線状降水帯による豪雨災害により多くの被害が発生しました。被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。発生後に被災現地を視察し、自治体や関係機関と情報共有を行いました。地元選出の国会議員として、国・県・市町村の連携を一層強化しつつ、早期復旧に全力で取り組んでまいります。併せて、政権与党の一員として、事前防災の強化の観点から「防災・減災・国土強靱化」の予算確保に努め、災害に強いまちづくりの推進に努めてまいります！



「みやじ拓馬と語る会」を各地で開催

皆様の声を政治の現場に届けるために

地元の皆様と直接お話しする「衆議院議員みやじ拓馬と語る会」を各地で開催しています。地域の課題や暮らしの声を自らの耳で伺い、政治に反映していくための大切な機会であり、まさに私の政治活動の原点です。各地域で小規模かつ丁寧に行うことを心がけており、皆様の率直な思いやご意見を伺うことを何よりの目的としています。同時に、私自身の考えや思いも、直接お伝えしたいと考えています。今後も各地で開催を予定しておりますので、ぜひ足をお運びいただき、皆様の声を直接お聞かせください！



最新情報を更新中、是非登録をお願いします！

Instagram



X (twitter)



YouTube



Facebook



LINE

